

【留萌南部森林管理署】 木造建築・我が署紹介！

留萌南部森林管理署は、留萌振興局管内南部の1市3町（留萌市・増毛町・小平町・苫前町）を管轄し留萌市内に所在しています。国有林の管理面積は約9万2千haあり、1市3町の区域面積の約52%、森林面積の約61%を占めています。



新築当時の現庁舎

最南部に位置する暑寒別岳を中心とする地域は、豊かな高山植物や優れた山岳景観を有しているため、暑寒別天売焼尻国定公園に指定され、夏には多くの登山客や観光客が訪れています。

【森林管理署の変遷】

旧庁舎は、「旭川営林局留萌営林署」として新築されました。

平成11年に留萌営林署と達布営林署及び古丹別営林署の3営林署が北海道森林管理局旭川分局留萌南部森林管理署として統合され、さらに平成16年4月に北海道森林管理局留萌南部森林管理署となりました。国有林のアカエゾマツやトドマツをふんだんに使用

した旧庁舎は、57年間に渡り留萌の風雪に耐え抜きましたが、老朽化が進んだことから現在の場所に移転・新築されました。

【現庁舎の概要】

現在の庁舎は、平成22年3月に竣工し13年が経過しています。木造2階建てで延床面積は485.7㎡。道産のカラマツ、トドマツ、シラカンバ、ヤチダモなど約109㎡の木材が使われています。柱・梁にカラマツ大断面集成材、床フローリング及び腰板は全面シラカンバ、階段はタモ材を使用するなど署内に木の香りとぬくもりが感じられ「木の良さ」について、多くの人に認識を深めていただける木造建築となっています。

1階には会議室・書庫・休憩室・トイレ等が配置され、会議室・トイレ・玄関ロビーはバリアフリー化されています。また、1階の階段前には間伐材の有効活用と地球環境に優しい「木

質ペレット」を燃料とするストーブを配置し、木材利用のPRに一役買っています。

2階には署長室・執務室及び森林事務所を配置しています。執務室はスペースを有効に使用できるような極力柱を廃した開放感のあるものとなっています。

執務室内は既製の鉄製ロッカーではなく、シナ材で製作された書棚が壁に備えつけられたことで、統一感があり木に包まれ暖かさを感じられるつくりとなっています。



執務室

また、大きな断熱二重力

ラス窓を南北側の壁に配置することで自然光が全体的に入り込むようになっていきます。さらに、寒冷地対策として、高密度断熱材により結露対策が施されているので、執務室は灯油ストーブ2台で厳冬期も快適に過ごすことができます。



柱や梁は道産の大断面カラマツ集成材

【地域に貢献できる森林管理署をめざして】

最後に、これからも地元愛され地域の森林・林業・林産業の発展や活性化に貢献できる森林管理署として、地域から応援していただけるよう取り組みを進めていきます。